

会 議 録

1 会議名

令和5年度第2回八千浦区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

【協議事項】

・「地域活性化の方向性」について（公開）

3 開催日時

令和5年9月19日（火）午後6時30分から午後7時25分

4 開催場所

八千浦交流館はまぐみ 多目的室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委員： 仲田紀夫（会長）、伊倉幹夫、笠原幸博、関川信之、羽深栄一、
平野和夫、柳澤 篤、渡辺孝三郎、渡邊修一（欠席者3名）

・事務局： 北部まちづくりセンター：佐藤所長、近藤副所長、小川係長、丸山主任

8 発言の内容

【近藤副所長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【仲田会長】

- ・挨拶
 - ・会議録の確認：関川委員、渡邊委員に依頼
- 議題【協議事項】「地域活性化の方向性」について、事務局へ説明を求める。

【丸山主任】

- ・資料No.1「八千浦区における『地域活性化の方向性』（案）」、資料No.2「八千蒲地区明

るい町づくり協議会との意見交換会における主な意見」に基づき説明。

本日の会議では、八千浦地区明るい町づくり協議会の皆様との意見交換会で寄せられた意見を踏まえて、地域活性化の方向性の地域協議会案の修正要否をご協議いただきたい。また、協議がまとまる場合は、八千浦区における地域活性化の方向性の決定についてもご協議いただきたい。

【仲田会長】

意見交換に入る。4月の第1回会議では地域活性化の方向性について議論をした。それをもとに、明るい町づくり協議会と意見交換をさせていただいたところ、資料No.2のような意見が出された。この意見を踏まえて、資料No.1の地域活性化の方向性を修正する必要があるかどうか、皆さん方からご意見をいただきたいと思う。また具体的なアイデアや、その他いろいろな意見が出ているので、質問等があったら挙手をいただき、しばらくの間皆さん方と意見交換をさせていただきたい。それでは、意見を求める。

【関川委員】

しばらく地域協議会を欠席しており、申し訳なかった。

その後いろいろと考えてみたが、八千浦という一つの器で考えていると、この中身がどんどん薄くなったり、どんどん少なくなってしまう。活性化に向けて世代を超えた交流ということになると、八千浦のなかでしか動いてないので、活性化や人口増等にこれだけでは繋がらないのではないかと思う。だから、他のところから八千浦区に来てもらうような交流や、「取組をしましょう」とか「目指しましょう」ということも付け加えていただければよいのではないかと思う。

【仲田会長】

前回事務局が出された案で、海、海岸線ということで皆さん方と議論をしてきた経過があるし、このなかでもいろいろな意見が出されているので、今の関川委員の意見も踏まえてご意見をいただきたい。この際、自由に前向きな意見を出していただいて、人口も少しずつは減っているがそう大きく減っていないし、この八千浦地区の地域性というのは、他の地区に比べて一村一校という、保育園、小中まで近所顔を合わせた者が進んでいくという特徴もある。それを踏まえて、今、関川委員から非常にいい新しいアイデアが出されたので、活発なご意見をいただきたいと思う。

【関川委員】

活性化するために、さっき言ったようにここの中に増やさなければならぬので、私

たちだけではどうにもならないと思うが、例えば学区の区割り、南川小学校は八千浦中学校へ来たほうが近いと思う。そういった区割りの見直しで、南川の人たちが八千浦中学校へ来てもらう。行政のいろいろな問題があると思うが、そんなことも考えていけば八千浦の活性化になると思う。

【仲田会長】

これが決めたからといって制約されるものではないので、自由にご意見を出していただきたいと思う。

【関川委員】

青少年育成会議のいろいろなことをやっている。自分たちのことばかり考えるのは申し訳ないが、例えば大島区等、海のない区の中学生もだんだん減ってくるが、そういう方面の中学校とこちらが交流して八千浦の良さを知ってもらい、将来こちらに来ていただくというのも一つの方法ではないかと思う。

【仲田会長】

他に意見を求める。

八千浦小学校が牧小学校と交流をしていることはご存知だと思うが、冬は八千浦小学校が牧小学校に出向いて行く。夏は牧小学校が八千浦小学校に来るということで、今年は先週がその予定だったが、牧小学校でコロナが蔓延したということで急遽欠席をされたが、一昨年であったか八千浦に来てイベントに参加をしたという、そういった交流もやっているし、地域協議会としては、数年前に谷浜・桑取区の地域協議会と交流を行い、意見交換をしたという経過もある。そのへんも踏まえて、交流という地域活性化、世代間交流という、このへんのキーワードでなにかご意見をいただきたい。明るい町づくり協議会から出された意見というのは、先ほど関川委員から話があったように、地域内で相当限定された意見として尊重していかなければいけないと思うが、交流というのは地域の外から呼び込む、外に情報発信をする、両方があると思うので、そのへんについてご意見があればお願いをしたい。

【羽深委員】

今関川委員から話が出たが、確かに若いときの交流というのは大事だと思うし、その繋がりで八千浦に住んでいただいたり、交流を持ってもらうというのは大事だと思う。私も「地域活性化の方向性」のところで意見を述べたことがあるが、八千浦という地域は、小学校、中学校、その下の保育園から12年間一緒ということで、絆という面では

非常に強いし、実際に私の子どもを見ても、もう随分大人になったが、いまだに中学校の友達と一緒に同級会みたいなことをやったりして非常に長いつき合いをしている。それはそれで非常にいいことだと思うが、逆に中学校を卒業するまで新しい友達とめぐり合うチャンスがない、高校へ入学したときに八千浦の生徒は非常におとなしい、つき合うきっかけがわからない。刺激を受けたことがないので絆がすごく強い反面、高校へ入学したときに友達ができにくいという話を聞いたことがある。私の子どもも、1学期だけであったが、遊びに来るといったらだいたい中学校の友だちばかりで、夏休みを境に区外の友達の顔も見erようになった。やはり学校が変わったときに、最初に交流というか友達を作るとするのは非常に大事なことだと思うので、若いうちにそういう交流を持つことによって、いろいろな情報も得られるだろうし、高校行く前にどこかで交流を持つというのは大切ではないかと私も思う。

【仲田会長】

今二人から意見が出て、交流というキーワードをどのように捉えて、地域活性化のなかに入れ込むか。保育園、小学校、中学校まで他と交わるようなことがなくそのまま持ち上がって、新しく交流が始まるとすれば高校に入学して初体験ということが八千浦区の特徴で、それが逆にいつ大人になって地域の絆というか、例えば早朝野球や、中学校のバスケットボールが人数が少なくて頸城と一緒にチームを組んだ。バレーボールも八千浦単独でチームを作っていたけれども、人数が少なくなって他の小学校、中学校とチームを作った。高校野球も一つの高校だけではチームが作れなくて、幾つかの高校が一つのチームを作って参加をしている。こういう状況を見たときに、お二人から出た意見を踏まえて皆さんからご意見をいただきたい。

【関川委員】

今会長がおっしゃったように、活性化に向けての枠のなかには、世代を超えての交流はもちろんだが、他の地域の交流という文言を加えてはいかがか。今年も八千浦地区海まつりを実施したが、以前は中学生にぜひ海まつりを見に来てほしいと他校の生徒会に案内をしてもらえよう再三お願いしていた。ただコロナ禍になってしまい、そういうこともすっかり忘れられているので、子供たちがそういうふう発信して、八千浦地区ではこんなに中学生中心にやっているんだというところを、他の中学校の生徒に見てもらえるのも一つの手だと思う。

【仲田会長】

今年の海まつりも終わったが、参加された方は感想も含めて、今交流というキーワードが出ているがなにか意見はないか。

【柳澤委員】

会長が、今年の海まつりが終わったと言われたが、絆、その他もろもろを考えると、今年も暑い中であつたが中学生はそれなりに動いていた。こちらから言わなくても、きちんと自分の役割を自分で判断していたと思う。ヨサコイを踊る人は踊る人。それから料理を手伝うのは手伝う人、売る人は売る人と、手前みそになるけれども非常にバランスのとれた、今年は何にかそんな感じがした。ですから、あまり型にはめなくても、流れとしてはうまくいっているのではないかと思う。だから、ここに書く文言をどうするかで決まってくると思う。具体的にならなくて申し訳ないが、今年の海まつりを見ていてそう思う。この後に、八千浦文化展、はまぐみ市もあるわけだが、お手伝い等は何にもなかったが、そういうときにまたどうするか。残念ながら、学校は働き方改革で一切関係ないと言う。中学生は単体で今年は動いてくれたので、非常に心強かった。それだけは感想として述べさせていただいた。

【仲田会長】

海まつりが継続してきて、これから本格的に地域としてというときに新型コロナ感染症が出て、3年、4年間ストップし、去年、今年全く変わった方向や形で実施をしてきた。これらを踏まえて、他に意見はあるか。

【渡邊委員】

海まつりには私も一員として出たが、今関川委員がおっしゃった他の中学校との交流というか声掛けは、私は今初めて聞いて素晴らしい案だと感心している。ずっとやっていると、マンネリ化の面が見える。保護者の方が来てくださったり、キッチンカーも、ちょっとずつ目先を変えているのではないかと思うが、やはり八千浦のエリアしか見ていなかったということを、今聞いて次回に向け反省すべき点だと思った。今度は、郊外、八千浦以外の方にも来てもらえるように、また新しい目玉等々を考えておかないといけないと思った。

【仲田会長】

他に意見を求める。

【関川委員】

海まつりのことで一つ付け加えるとしたら、ダンスパフォーマンスをやっている、教

えている男の子は頸城の人である。その関係で、ダンスパフォーマンスの発表のときに、南川小学校に行って練習したり、習ってる子たちもやっぱり来ている。そうすると、当然保護者も見に来る。

【仲田会長】

コロナの前に開催された海まつりでよかった点として、中学校を卒業した高校生が仲間を連れてステージ発表をやったという実績もあるので、その世代間、地域を越えた交流というのは、この海まつりをとおしてそれなりに芽生えてきたということがいえるのではないかと思う。

ただ大人目から見たらどうなのかという点で、どうしても大人がこの地域の特性というか特徴、この狭い地域のなかでいろいろな特徴がある。この地域から殻を破って行動するということが、なかなかできないのは大人だから、その点で活性化というキーワードをどのように生かしていくかということで、ご意見があれば出していただきたい。

【関川委員】

私もだんだん年をとってきて、これからの海まつり等もできれば各町内から30代くらいの方に実行委員に入ってもらい、そういう方が中心にまつりを運営していくような姿にしていかないとならないと思う。同じ人たちがばかりがこれを動かしていると、同じことしかできない。だから、活性化を考えると、やはり各町内から30代、40代の方から実行委員に入っていてやっていくのが理想的だと思う。

【仲田会長】

4月にいろいろな意見が出されて案を絞って、案のなかでもいろいろな意見が出されて、考えてきたことをペーパーにして提出をして、それを事務局にまとめていただいたという経過がある。意見がなければ、そろそろ次のステップに進みたいと思う。

明るい町づくり協議会との意見交換でいろいろな意見が出され、今もいくつか意見が出された。まず資料No.1の「八千浦区の地域活性化に向けて」というキャッチフレーズ、この点をこれでいくか、或いは今まで出た意見も踏まえて少し修正するか意見をいただきたい。「八千浦区の海岸線を中心とした豊かな自然と歴史・文化、地域の絆をいかして」までは、あまり意見が出てこないが、ここは今までずっと地域の特性ということで議論をしてきた経過があり今回もそう意見は出ていないので、問題は次の2行。「世代を超えて交流し、暮らす人や訪れる人の笑顔があふれる明るいまちを目指します。」これについて、これでいくかどうか。少しわかりやすく、或いは文言を変えるかどうか、このへん

の意見はどうか。海まつりで今まで12回経験をしてきたということ。関川委員から冒頭出たように、他の地域との交流、「世代を超えて交流し」のこの世代を超えてというところが、もう少し現実味を帯びたほうがよいのかどうか、「暮らす人や訪れる人」このへんを、地域間交流という形でいくと、もう少し行動しやすいように、或いは、なるほどと言えるような文言にするかどうかが。今まで出た意見からするとこの2点あたりを修正するならばこういう言葉がいいのではないかと。しないならば、具体的に構成要素のなかをもう少し変えていくか。このへんについてご意見をいただきたいと思う。

【羽深委員】

3行目からについて、先ほどから出ているが、どういう表現がよいのか。例えば「近隣地域を含め」とか、「近隣地域を交え」というような言葉を「世代」の前につけて、そのあとの「暮らす人や訪れる人」という言葉を生かす。「近隣地域」という言葉を入れたらよいのではないかと思う。

【関川委員】

自分たち地域のことを生かしているので、「世代を超えて交流することと、他の地域との交流を持つことにより、笑顔あふれる明るいまちを目指します」というような感じでいかがか。

【仲田会長】

字句を入れ替えるというのはすごく重要なことである。だから、「暮らす人や訪れる人」と、前の「世代を超えて」を入れ替えて、「交流」という言葉をどこにつなげるかという関川委員の意見。八千浦地区の特徴を生かして、なおかつ活性化をしていくためには、このなかだけで、たらいの水みたいな形でかき回しても駄目。少し、外からの水なりを取り入れながら新しい流れを作っていく。その中心を世代というふうに行くのか、交流を語句を入れ替えることによって、どちらを強調するかということ。そうすると、構成要素のなか若干変わってくる部分も出てくる。羽深委員と関川委員の意見を踏まえて、皆さんいかがか。

【渡辺委員】

不確かだが「関係人口」という言葉が、社会学かなにかにあったような。ここに住民人と他との関係を増やすという、そういう感じで、正確に覚えていないがそういう言葉があったように記憶している。

【仲田会長】

「交流人口」という言葉は、最近はあまり使われていないのではないかと。二、三年前までは観光ベースとして、「交流人口を増やす」という、新幹線が開通したときは「交流人口」という言葉がよく使われたということも踏まえて、語句を入れ替えて「交流」を強調していくというやり方でもう少し意見はあるか。3行目4行目。キャッチフレーズ、このままいくか、少し修正を加えるか。「世代を超えて」というのは、イメージとしてどうか。あまりここは議論してこなかったが、多分年齢だと思う。主に20から30、40ぐらいと、50、60。それから70以上のように。大きなくくりでいくと、若年、青年、壮年、老年。それを世代としてとらえるか。年齢をというように世代を超えてどうか、その点は皆さんどうか。

【関川委員】

大変失礼な言い方かもしれないが、世代を超えて交流するというイメージは、お年寄りと中学生、子どもしか入ってないようなイメージである。その真ん中がなにもないような、世代交流というと、私としてはすごく上の人と下の人が交わるようなイメージである。

【仲田会長】

世代間交流という言葉も、最近はあまり使っていない。そのときの世代間の世代というのは、今関川委員が言われたように、高齢化が進んできたときに使われた言葉としては世代間交流が多く使われた。少子高齢化の出始めのときに使われた言葉である。少子高齢化がここまで進んできて、地域活性化をどうするかというと、この世代を超えてというのは、一つは、キーワードとしてどうなのかということは言えるかとは思いますが、皆さんいかがか。

【関川委員】

今よくよく考えてみて、やはり先ほど話したように、3、40代の人がこの地域の中心になって、なにかを進めていくことが活性化に繋がるのだと思う。だから、「世代を超えて」というよりも、逆に「世代を超えて」をあえて使わなくてもいいのではないかと。活性化するためには、やはり若い人たちに動いてもらわないと活性化しないと思う。

【仲田会長】

大分核心に触れてきた。一緒に考えていただくとわかりやすい。構成要素の4番目、ここに隠れている部分がある。「地域活動やイベントへの積極的な参加・参画を通じた世代間交流、来訪者との交流促進」という、ここで構成要素として具体的になっている。

今、関川委員から出されたような意見も踏まえていかがか。ある程度修正したほうがいいのか、或いは修正しなくても構成要素のなかに具体的に書き込んでいくか。このへんはこれからの議論を、或いは具体的に活性化の方向性を導いていくためには、こういうキャッチフレーズと構成要素がかなり重要になってくるので、そのへんのイメージを踏まえてどうか。

【関川委員】

上の部分は骨子にあたる部分なので、ここはしっかり決めていただいて、構成要素は肉に当たる部分だと思うので、まず上の部分だけしっかり方向性だけ決めていただければよいと思う。

【仲田会長】

皆さんいかがか。関川委員は前回欠席されているので、そういった意味では、いろいろな発想というか、感覚もある。この世代を超えてという、交流、問題は「交流」である。「暮らす人や訪れる人の笑顔があふれる」これも文字面からいくと、世代を超えて、地元と訪れる人との交流から活性化を導いていく。この地域特性を、地域の枠を取り払って、年齢の枠を取り払って交流して活性化に向かっていくというのが、多分今まで出た意見から要約するとそういうイメージで考えていただいたほうがいいのかと思う。

【羽深委員】

そもそも「世代を超えて交流し」という文言だが、この表現だと自らいろいろなことに参加して交流していく意思を持ってというふうにとれるのではないか。交流することによって活性化するという事に繋がるのだと思うが、そもそもその交流するための機会があるかないか。ちょっと上手く話ができないが、交流するためのきっかけ等を作ることが、そもそも大事なのではないかと今思い始めた。だからそれがあれば、みんなその気になれば、交流してどんどんどんどん活性化すると思うが、まずその交流をする機会、チャンス、きっかけを見つけてやる、与えてやるという、そこから考えていかなければいけないのではないかと思う。

【仲田会長】

前は、地域のなかでどうしていくか、地域特性が議論されてきた。今日の議論は、交流、いわゆる世代を超えて、年齢を超えて、地域を超えて交流して、活性化を目指していこうという、そちらに向かっているので、最初の2行は、これでもうでき上がっていると考えていただいてもよいと思う。だから地域特性を生かして、文化、歴史、そうい

ったものを伝承していくという、それが活性化に向けた一つのベースとしてあって、さらに、交流を深めて活性化をしていくという、これが地域を元気づける、八千浦という地域を知ってもらい、或いは知らしめる、そこを活性化の要素として、年齢の枠を超えて、地域の枠を超えて交流というキーワードに繋がっていくという、そういうイメージでいただいたほうがわかりやすいのかと思う。そうすると下にある構成要素がそのまま生かされてくる。これを肉付けしていくということになるので、これからの我々の議論がどういうふうに進んでいったらいいのかという想像もしやすくなるのではないかと思う。

修正する方向でいったら、今日は意見を出していただいて、後で事務局の力を借りて文言整理をするというやり方もあるし、今日ここで文言まで決めてしまうかどうかもある。或いは修正しないということもできるので、そこは皆さん方の意見をいただきたい。

【関川委員】

一番上の部分はどういうことかという、一つ目は内々のなかでやる。二つ目は、地域を交えて活性化するということである。いつも思うが、二重線のところで歴史・文化、地域の絆をいかしてということになると、内々の話である。地域の活性化をいかして交流を活性化し、プラスもう一つの方向性として、他から地域を引っ張り出して八千浦を活性化する。だから、このなかに謳っていることは二つ。内々の活性化も大事だが、さらに活性化するためには外の力も必要だというイメージでよいのではないか。

【仲田会長】

意見交換をしながら、少しずつ絞られてきたような気がする。まだ発言してない方、他に意見はあるか。今までの議論を聞いて、「なるほどそうか。」「違っただろう。」という意見があつていいと思う。頭の中ではぐるぐると回っているが、イメージとして固まらない。言わんとすることは理解できてきたのではないか。

事務局に聞くが、後で文言整理をしてもよいか。今日は、修正するかしないか方向性だけ決めて、議論を踏まえて文言整理は次回に回してもよいか。

【丸山主任】

それでも結構である。今回いろいろな意見が出ているものを踏まえて、次回の地域協議会のなかで、事務局でまた修正案を作成するというのも一つの手だと思うし、事務局側からなにか示すと、それに引っ張られてしまうから示さないほうがいいということであれば、次回10月以降に開催する地域協議会において、この協議の続きから再開して

いただくというのも手である。それをまた皆様の協議でお決めいただければと思う。

【仲田会長】

あまり急いでさあさあというわけにはいかない。資料No.1の案について、活性化と交流というキーワードをどういうふうにつなげていくか。それと地域特性、それをどう盛り込んでいくかというところに絞られてきていると思う。もう少しご意見があれば出していただきたい。

今日はここをこういうふうに修正をするということではなく、今までの議論を踏まえて出された意見をまとめて、事務局で修正する。キーワードがある程度出ているので、そのへんをまとめて次回整理をして、キャッチフレーズを成文化していく。或いはある程度固まったものとして仕上げていくというやり方でどうか。出された意見を要約すると、世代間という年齢の枠を超えて、それから、八千浦地域から出ていく、八千浦に来ていただく、呼び込む。それをどのような形で、具体化して交流、活性化につなげていくかという意見が一番多かったのではないと思う。そのへんを整理して、次回さらに議論を深めて、キャッチフレーズや構成要素を仕上げていくということでどうか。そうであれば、こういうことも考えようという意見があれば受け付ける。

イメージとしてはどうか。交流や活性化、八千浦地区の特性を生かしつつも、交流をどのように進めていくかというイメージ。世代間の世代をイメージすると45から50歳くらいで、世代間交流というと年寄りと若者の交流というようなイメージで捉えられるという意見もあった。そのへんを世代というよりも、年齢の枠というふうに考えていくかどうか。それからもう一つ重要なことは、30、40、50代の人たちをどう引込んで交流、地域の活性化を進めていくかが重要なキーワードになるのではないと思う。そのへんについて意見はあるか。

【関川委員】

個人情報のあることあるが、私は直江津高校の八千浦支部の支部長をしており、八千浦に嫁いで来られた方もいらっしゃるの、そういう方に声をかけて人を集めるのも一つの手ではないかと思う。

【仲田会長】

関川委員の意見のように、構成要素として、一つのツールとして使っていくという手法。高校へ行って新しい友達との繋がりができた。それによって交流を深めてきた、そういう人たちを巻き込んで地域活性化、交流を深めていくという手法はあるかと思う。

それでは、キャッチフレーズについて一つ確認だけしておくが、前段2行「八千浦区の海岸線を中心とした豊かな自然と歴史・文化、地域の絆をいかして、」については、少し文言を変えるとしても、ほぼこのとおりでいく。その次の2行の交流と活性「笑顔あふれる明るいまちを目指します」という地域の活性化というところを、どういうふうに入れ込んでいくかということで、今日の議論でいろいろな意見が出されているので、まとめて、次回この議論を継続していく、次回である程度の成案を作り上げていくというまとめでよいか。

(委員同意)

事務局いかがか。

【丸山主任】

本日出していただいた意見を踏まえて、事務局から修正案を協議のたたき台としてご用意させていただくということでよいか。

【仲田会長】

皆さんよいか。

(委員同意)

それでは今事務局からも話があったが、今日は地域活性化の方向性もキャッチフレーズについては決定ではなく、引き続き継続的な議論を深めて、次回の協議会をめぐり最終的に取りまとめていくということでよいか。

(委員同意)

事務局は大変だと思うがお願いしたい。

事務局からなにか意見はあるか。

【丸山主任】

次回の地域協議会に向けて修正案を作成させていただく。

【仲田会長】

それでは次の議事に移る。4 その他、事務局からなにかあるか。

【丸山主任】

西ヶ窪浜の海岸線に設置している公衆トイレについて、ご報告させていただく。8月4日に行った意見交換会の場で、公衆トイレが臭いというご意見をいただいた。実際にトイレの管理をしている市の観光振興課に、管理の状況について問い合わせを行ったところ、夏については週3回ほど清掃に入っているが、それでも足りないとい

いうことであれば、消臭剤の設置等具体的に対応するという事で、回答をいただいた。

【仲田会長】

他に意見を求めるがなし。

次回の協議会も含めて、事務局なにかあるか。

【丸山主任】

- ・次回協議会：10月中旬以降

内容は本日の続きで、方向性の決定に向けたさらなる協議としたい。

【仲田会長】

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

総合政策部 地域政策課 北部まちづくりセンター

TEL：025-531-1337

E-mail：hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。